



本資料のWebへのアップはご遠慮ください

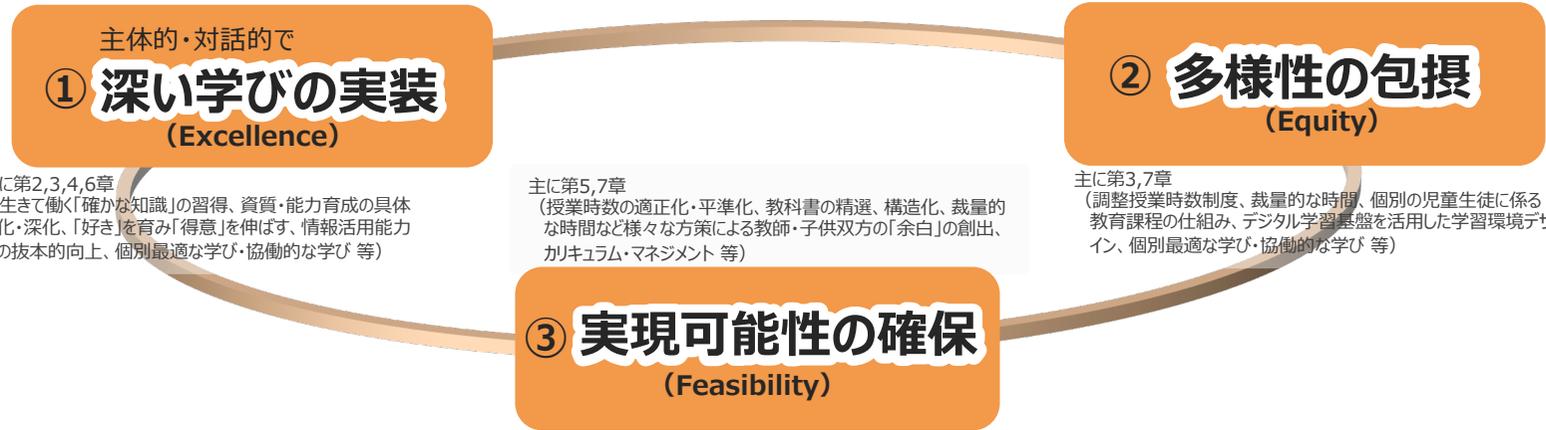
次期学習指導要領に向けた カリキュラム・マネジメント

大阪教育大学 田村知子

行政文書では「カリキュラム・マネジメント」と表記されますが、研究論文等では「カリキュラムマネジメント」と表記されることが多いです。そこには「カリキュラム」と「マネジメント」をつなぎ一体的に行う、という意図もあります。本資料は両方の表記が混在しています。

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

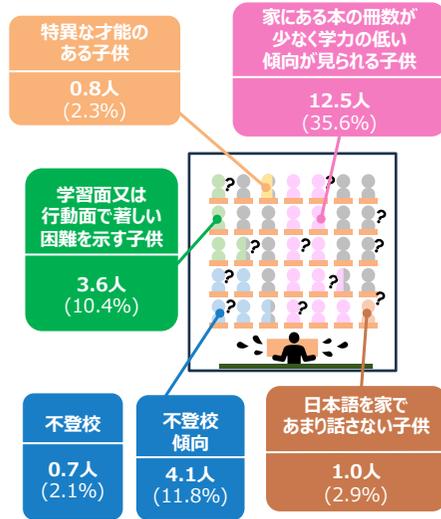


生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

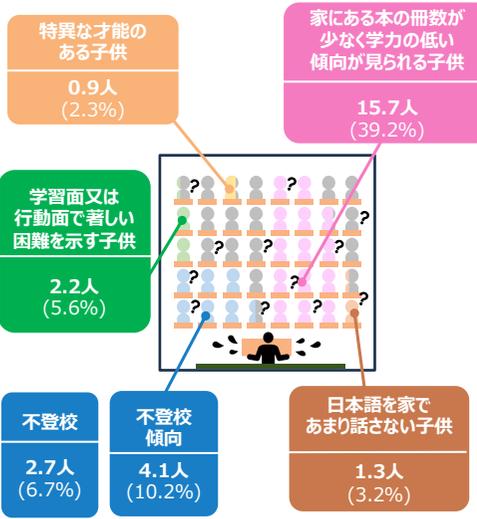
児童生徒の多様性を包摂する必要性（小・中）

- どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



※各数字の出典は諮問参考資料P45_46参照
https://www.mext.go.jp/content/20242127-mxt_kyoiku01-000039494_03.pdf 27

中央教育審議会
教育課程企画特別部会
『論点整理』
(令和7年9月25日)

そもそも
子どもたちは多様

要は、「この子ども（たち）」に
最適な学びを創り出せるのは各学校

各学校が工夫する「柔軟な教育課程」

教育課程を、各学校が「つくり、動かし、振り返り、変えていく営み」がカリキュラム・マネジメント

近年の学習指導要領改訂

カリキュラム・マネジメント

1998 総合的な学習の時間

2008 言語活動，キャリア教育

2017 汎用的な資質・能力
主体的・対話的で深い学び

2027 深い学び，多様性を包摂
(予定)

各学校が開発

一つの教科に
おさまらない

教育課程全体で
組織的に
取り組む必要

研
究

教
育
行
政

各
学
校

現行学習指導要領における 「カリキュラム・マネジメント」の位置づけ

総則

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下、「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

編みかけ部分は、いわゆる「三側面」

現行定義における現場の受け止めの主な課題

- ① 「教科等横断的な視点」が強調され、
「カリマネ＝教科等横断」と誤解されやすい
- ② 深い学び，系統性、学校の学びと実生活や地域との接続、
時数・時間割の工夫などが捉えにくい
- ③ 子どもの学びの実態把握とその背景要因への洞察が弱い
→ 実態を適切に把握し、背景にある要因を考察すること、そして目的・目標を教職員間で納得感をもって共有することなくしては、「**多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程**」の実現は困難である。
- ④ 「評価・改善」の方法がPDCAに限定されがちで柔軟性を欠くことがある
- ⑤ 「やらされ感」が強まり、教師の創造性や主体性が阻害される
- ⑥ 「カリマネ」という用語の拡張的使用が進む一方、
実質がブラックボックス化
- ⑦ 教師の（集団的）エージェンシー（自律的判断・行動）への視点が弱い

カリキュラム・マネジメントといえば、
「教科等横断」とは限らない

時間のマネジメントの重要性が増す。

そもそも、「教育課程」とは？

教育課程とは

【小学校学習指導要領 解説 総則編 H29(2017)】

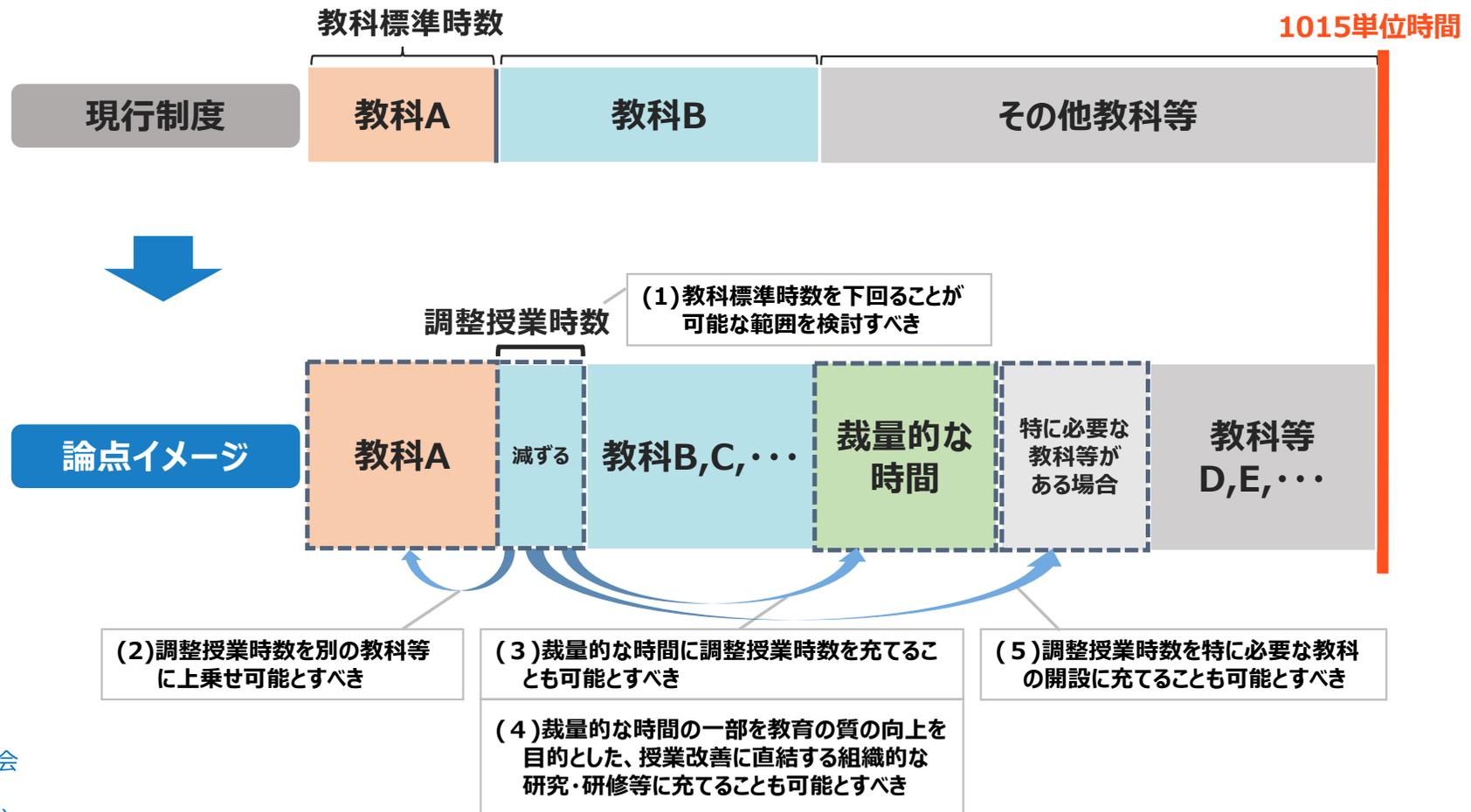
教育課程については、様々な捉え方があるが、学校において編成する教育課程については、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育課程であると言えることができ、

【小学校学習指導要領 解説 総則編 H20 (2008)】

学校において編成する教育課程は、教育基本法や学校教育法をはじめとする教育課程に関する法令に従い、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動についてそれらの目標やねらいを実現するよう教育の内容を学年に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画である。

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



🔦 具体的な方向性と論点①（特例校制度と時数の取り扱い）

【方向性】

- 特例校制度については、申請数が増加し、一定の活用類型も確立していることを踏まえ、国への申請を不要とすることも含め、「特別な選択肢」ではなく、「常に利用可能な選択肢」とする方向で検討すべき
- 加えて、多様な個性や特性、背景を有する子供たちを一層包摂できるよう、研究開発学校等の運用実績やデジタル学習基盤の活用による効率化の可能性を踏まえ、授業時数の取扱いについて一層柔軟化する方向で検討すべき
- 以上について、「調整授業時数制度」として創設し、教師の仕事や子供の学びに「余白」を生み出すとともに、教育の質の向上に資する方向で検討すべき（負担軽減自体が目的ではないことに留意）

※学習指導要領の内容事項が適切に取り扱われることが前提。
学習指導要領の一層の構造化は別途検討するとともに、その解説・教科書・入試・教師用指導書等の影響も含めた授業づくりの実態を全体として捉えながら、過度な負担や負担感が生じにくい
在り方を検討

【具体的論点】

- ① 総授業時数を維持しつつ各教科の標準授業時数（以下「教科標準時数」という。）を調整することが可能な範囲を検討すべき。その際、現行の授業時数特例校制度（1割が上限）や研究開発学校における実践等も踏まえつつ、上限の拡大の適否や対象となる教科等も含めて検討すべき
- ② 教科標準時数を調整することで生み出された授業時数（以下「調整授業時数」という。）の活用方法について、地域や学校、児童生徒の実態を考慮して以下のような取組を特例的に可能とする方向で検討すべき
 - ✓ 別の教科等の授業時数に上乗せする
 - ✓ 特に必要な教科の開設に充てる
 - ✓ 各教科等に該当しないものの、児童生徒の個性や特性、実態に応じた学習支援など、児童生徒の資質・能力の育成に特に資する効果的な教育プログラムを実施するための裁量的な時間（以下「裁量的な時間」という。）に充てる
- ③ 裁量的な時間の上限と類型（※）について具体的に検討すべき。特に、裁量的な時間の一部について、教育の質の向上を目的とした、授業や指導の改善に直結する組織的な研究・研修等に充てることも可能とする方向で、その上限と類型についても具体的に検討すべき
（※）例えば、基本的な概念の獲得や意味理解を伴った確かな知識の習得、認知の特性に応じた学力保障、学習方略に関する指導、個人探究を伴う体験活動、ソーシャルスキルトレーニング等が想定される
- ④ 国への申請を不要とし、「調整授業時数制度」による取組を学校等の判断で可能とするに当たって、以下の担保措置について具体的に検討すべき
 - （1）不適切な運用を防ぐための仕組み（例：児童生徒の負担過重、受験対策への過度な傾斜など）
 - （2）保護者や地域住民に対する説明責任を果たし、理解を得るための仕組み
 - （3）教育委員会や文部科学省としての教育課程編成状況把握の仕組み

32

中央教育審議会
教育課程企画特別部会
『論点整理』
（令和7年9月25日）

時数削減するならどの教科？

標準よりどれくらい下回れるといいですか？

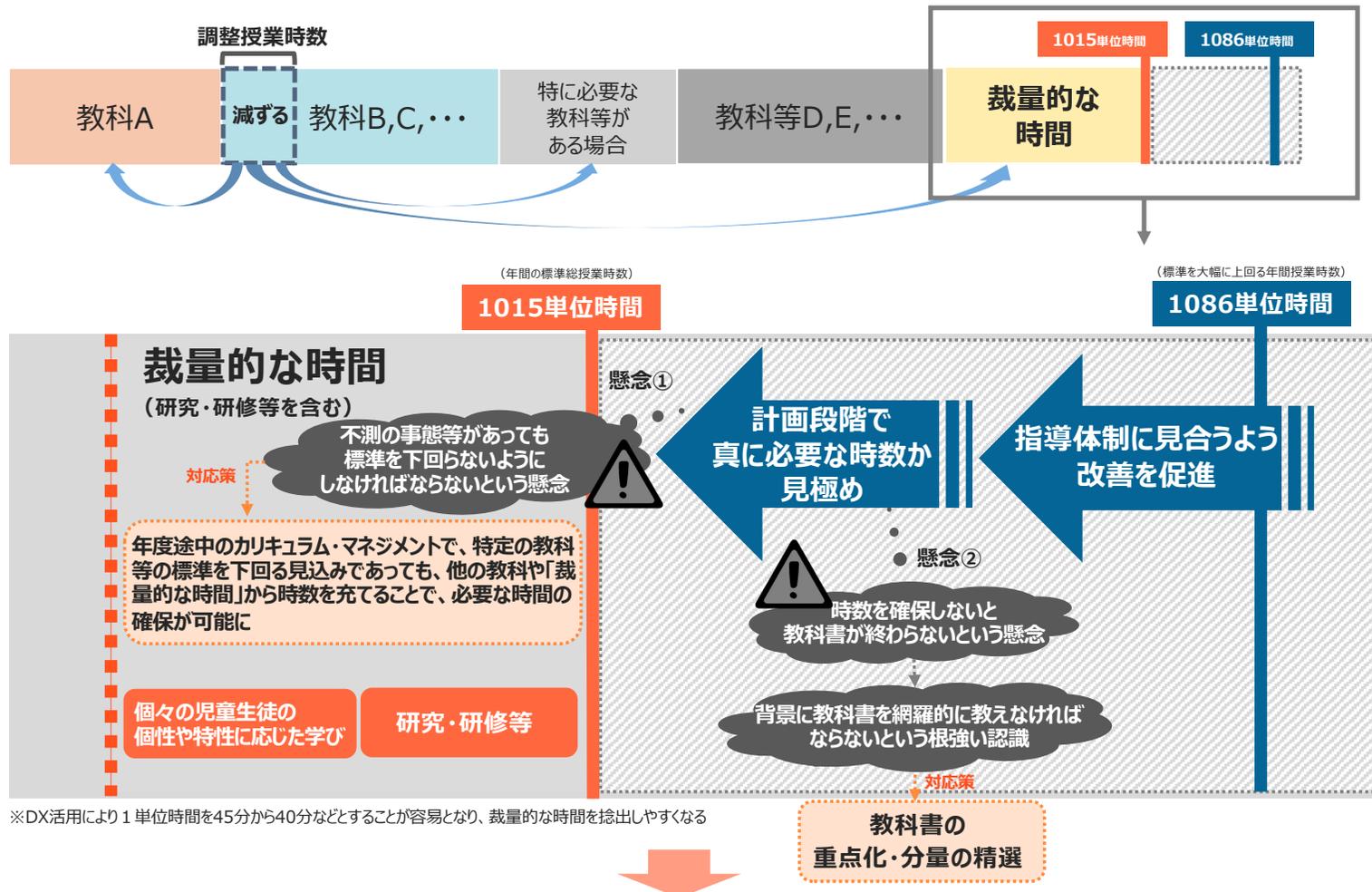
生み出した時間を
どう使いたいですか？
（他教科/新設教科/裁量的な時間..
個別最適な学び等/研究・研修）

どのような不適切な運用が
懸念されますか？

保護者等にどう説明？

教育委員会はどのように把握するべきですか？

標準授業時数の弾力化と時数精選の関係



「2つの懸念」を解消できれば、不測の事態への対応を含め、年度途中の状況に応じたカリキュラム・マネジメントがしやすくなり、**年度当初の計画段階で真に必要な授業時数の設定が容易に**

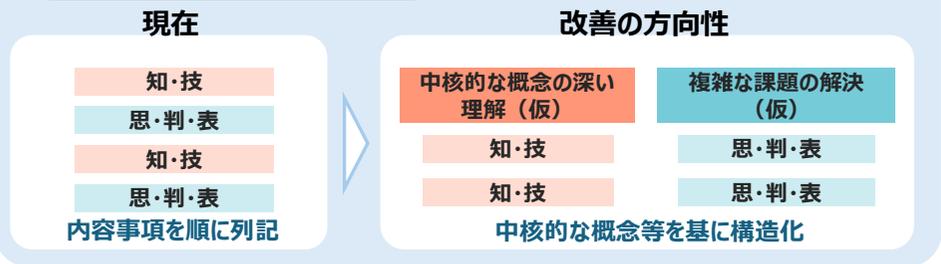
学習指導要領の構造化・柔軟な教育課程を契機とした教科書等の改善

補足イメージ5-④

① 学習指導要領の構造化

- 生成AIが飛躍的に発展する中、個別の知識の集積にとどまらない概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導が一層重要
- そのため、学習指導要領において、各教科等の本質的理解（中核的な概念等）の獲得に重点を置き、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、そのために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選の上で構造化

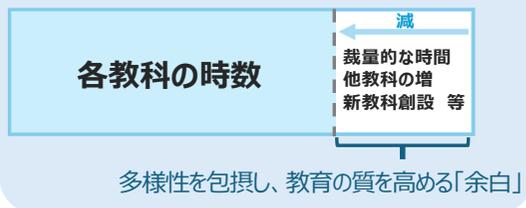
※精選：多くの中から良いものをよりすぐること



② 標準授業時数の弾力化

- 調整授業時数制度により、各教科の標準授業時数を減じて生み出した授業時数を、他教科等や「裁量的な時間」等への充当を可能とすることを検討

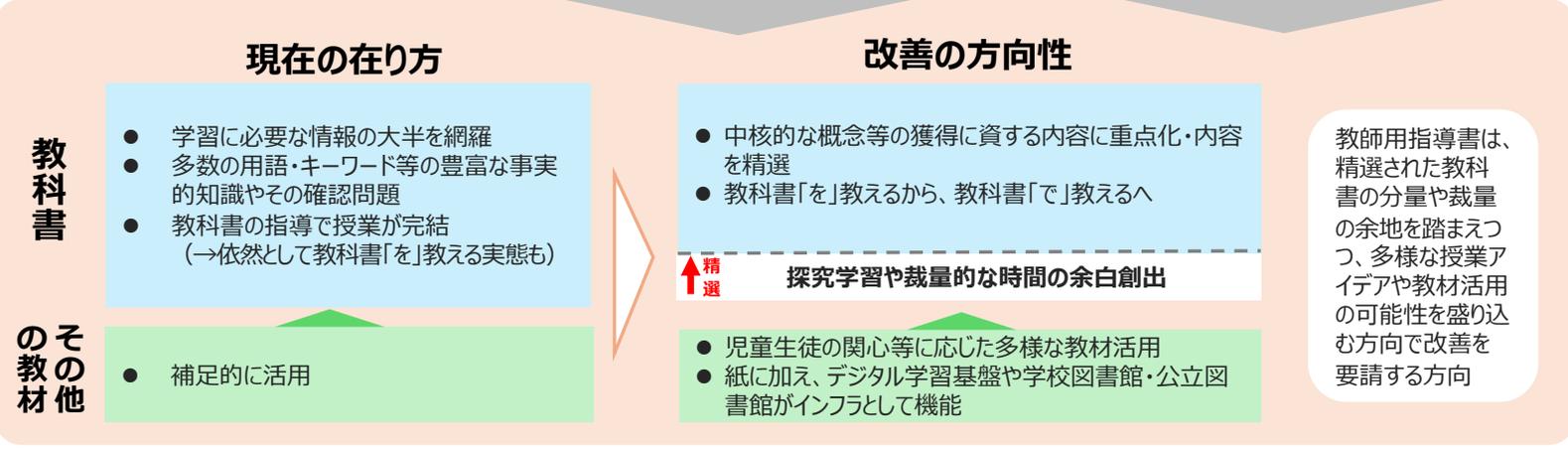
※上限は現在の時数特例では1割、今後、拡大の適否を検討



中核的な概念等を
掴みやすい方向で改善

裁量の余地を増やす方向で改善
(各教科の標準を下回る時数で指導可能に)

③ 教科書の重点化・内容の精選



改善の実効性確保

「教科書を全て教えないといけない」という網羅主義を脱して、学習指導や教科書の改善を実効性あるものとするとともに、教育課程の実施に伴う教師・生徒の負担を軽減するためには、高校入試の改善を一層進めていくことが必要。（第七章（2）参照）

④ 入試

中央教育審議会
教育課程企画特別部会
『論点整理』
(令和7年9月25日)

現職教員の受け止め方の実態と変容 (典型例)

X教職大学院「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の講義の事前・事後の変化
分析対象回答数：計154人分（2020年度：48人，2021年度：60人，2022年度：46人）

【 before 講義前の理解 】	【 after 講義後の理解 】
「カリマネ＝管理職の仕事」 「難しい・苦手・他人事」 「子どもの姿が見えない」 「やらされる」 「新たな業務が増える」	「自分たちでつくる」 「教職員全体で担う」 「子ども・地域と共に構築するイメージ」 「楽しく・創造的」 「やってみたいと思えるもの」

→現場での誤解や心理的抵抗の根底には、定義の表現・構造、あるいは伝達の過程で生じる理解の片面的な受け取りに起因する課題がある。

田村知子（2024）「教員のカリキュラム・マネジメントの捉え方の実態と変容 —教職大学院の授業受講者のポートフォリオの分析」
カリキュラム研究, 33, 43-56

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 教育課程企画特別部会（第11回）田村提出資料より

実態把握のワークシート例（1）

<p>生活指導</p>	<p>成果・よかった点</p>
<p>課題・要改善点</p>	<p>学習指導</p>

ワークシート（3）を使ったカリキュラム評価（振り返り）

少人数指導 **わかるって、うれしい！たのしいよ！**

「わかったよ！」その笑顔が私たちの宝です！

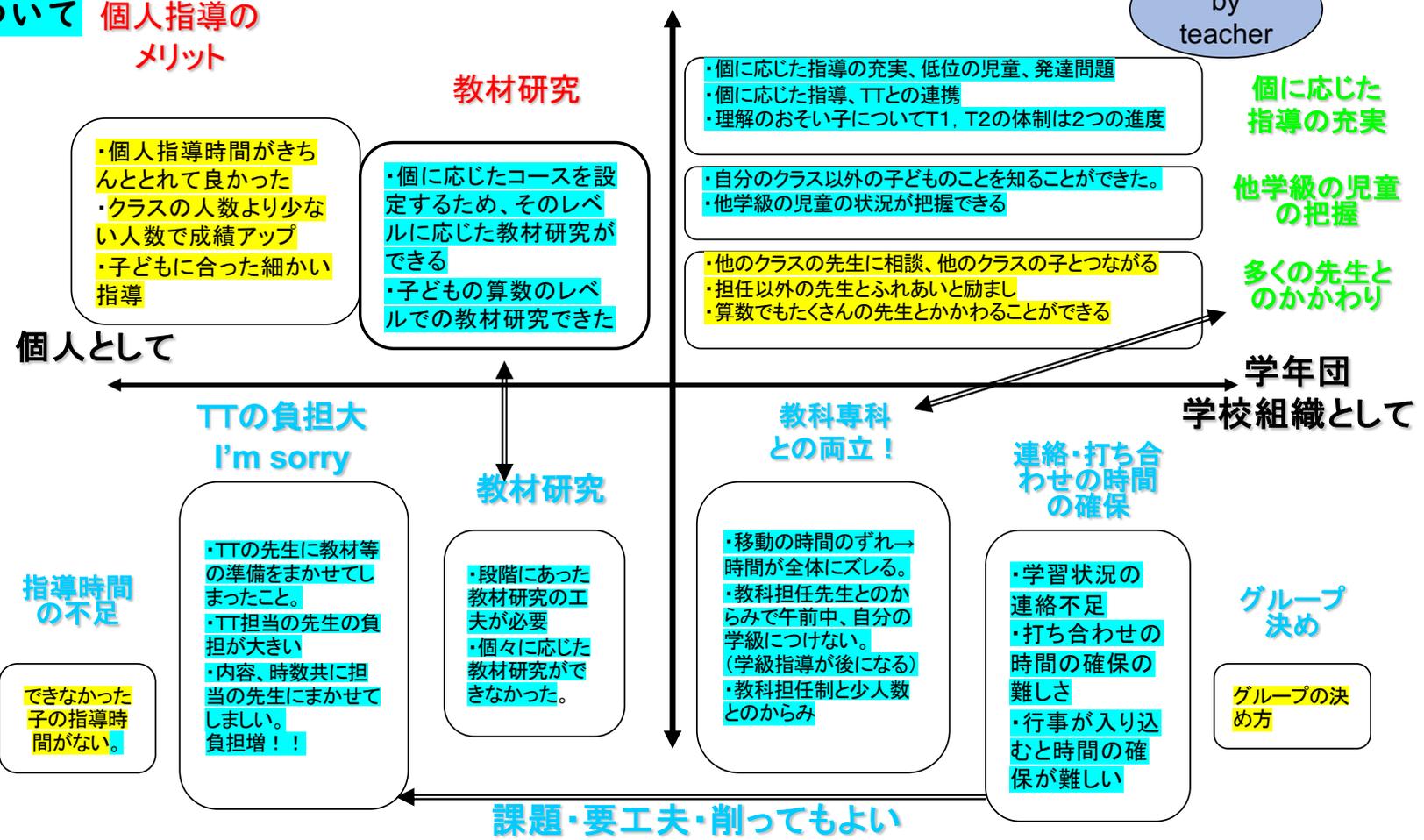
付箋の色分け

色1：児童生徒について

色2：教員について

個人指導の
メリット

成果 良かった点



「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」
(令和元年～令和2年度)

京都市の研究参加校（3校）すべてが全員で学校教育目標を見つめ直した

葵小学校	向島秀蓮小中学校	太秦中学校
<p>葵戦略会議を実施（SWOT分析を活用）教職員と学校運営協議会会長やPTA会長などの地域や保護者の代表がどんな子どもを育てたいか、どんな学校であればよいか話し合った。子どもの長所と短所を出し合い、付きたい力を明確にした</p>	<p>現行の学校教育目標が生徒の資質・能力を向上させるための目標となっているかを教職員全員で検証。本校の生徒が持つ良い点と課題であると思われる点を洗い出し、それぞれがなぜそうになっているのかを分析し、課題を克服するために必要な学校教育目標を創り上げた。</p>	<p>「地域をより良く変えていくための起爆剤」「学力向上」というミッションを果たすため、生徒の実態を踏まえ、育てたい生徒を教職員で話し合い、学校教育目標を創り上げた。自分たちが設定した目標であると捉えることができ、その目標が自分たちの目指すべき旗印であるとの思いを強くした。</p>

各学校のカリキュラムマネジメントの工夫例

例) マンダラートを使ったワークショップでビジョンと戦略を練る 資料提供高知市立城東中学校 田村(2022, p. 73)

抽象から
具体へ
(教職員の参画)

カリキュラム・マネジメントの視点を生かした 城東中学校 学校経営戦略マンダラート

マンダラートとは、1987年に今泉浩晃氏によって考え出されたものです。アイデアを整理・外化し、思考を深めていく「アイデア発想法」のごとで、目標達成のためのフレームワークの一つと考えられています。
城東中学校では、「学力」と「表現力」を重点目標に掲げ、「一点突破・全面展開」で学校改革に着手していきます。4月には、全教職員で戦略会議を開催し、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした「学校経営戦略マンダラート」を作成しました。これをもとに、PDCAサイクルを回しながら、目標達成に努めていきます。



高知市立城東中学校 〒780-0055 高知市江崎町1-20
TEL:088-883-7188 FAX:088-883-7197 E-mail:joto-j@city.kochi.lg.jp
http://www.kochinet.ed.jp/joto-j/

高知市立城東中学校 学校教育目標

「タンポポ魂」の育成

「タンポポ魂」に込めた思い

詩人の坂村真民さんの「タンポポ魂」という詩から引用した言葉です。タンポポには、踏みしめられても枯れない強さや、太陽に向かって咲き続ける明るさがあります。また、タンポポの花言葉には、「自分の幸せを求めながら人の幸せを考える」という意味があります。タンポポの種のように、どんな遠いところへ飛んでいっても、そこで花を咲かせ、周りの人々の幸せを願える人間になりたいと思います。みなさんの力で、美しいタンポポの花が咲き続ける、そんな学校にしていきたいです。

学校スローガン

ISSHIN

「心を一つ」という「一心」「学校を変える」という「一新」。「一歩ずつ進む」という「一進」。「成長する」という「一伸」。「志を育てる学校」という意味の「一志」など、「ISSHIN」という音には、様々な漢字を当てはめることができます。

キャッチフレーズ

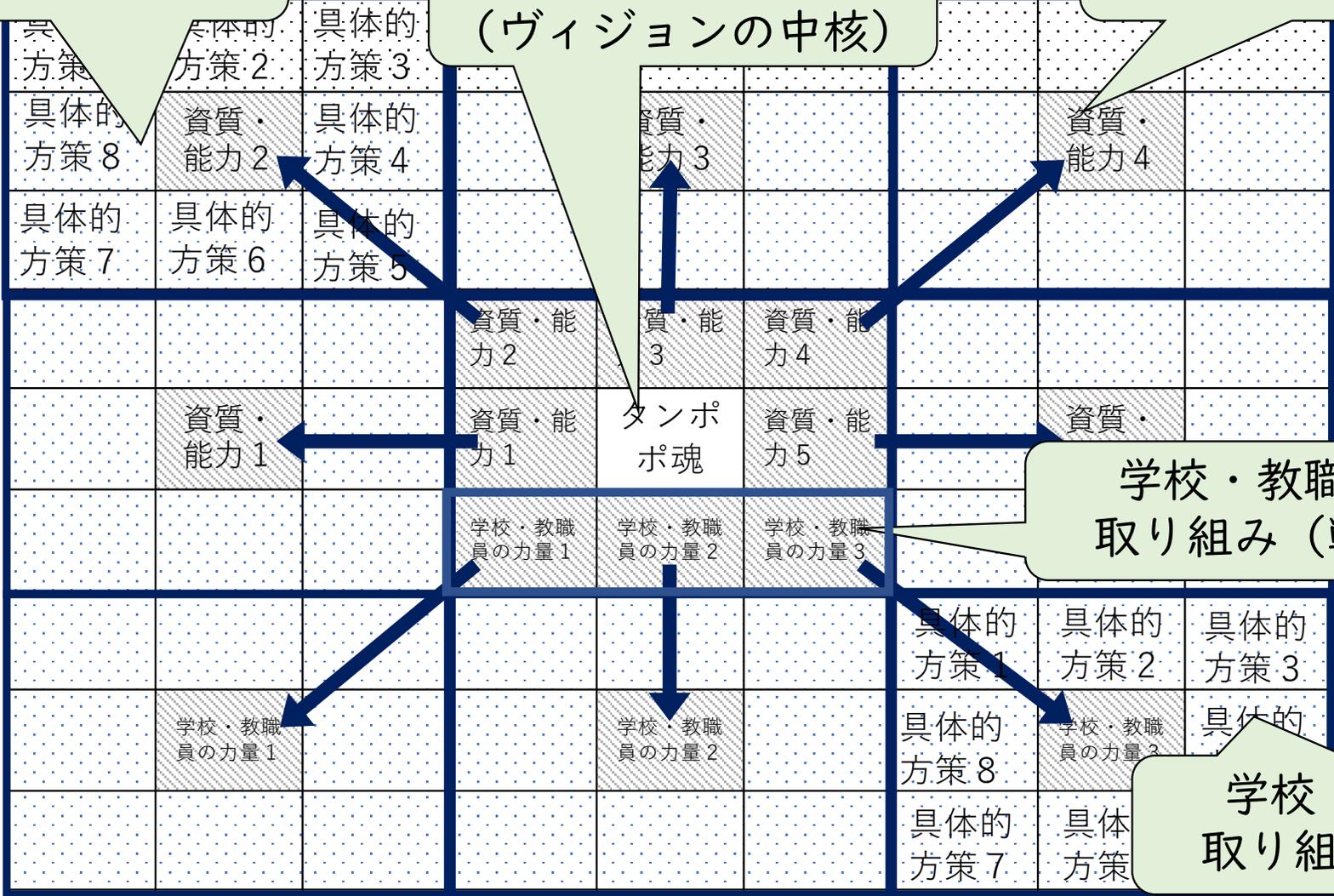
哲学

キャッチフレーズ

資質・能力を育成する具体的方（戦術）

学校教育目標
(ビジョンの中核)

育成をめざす
資質・能力

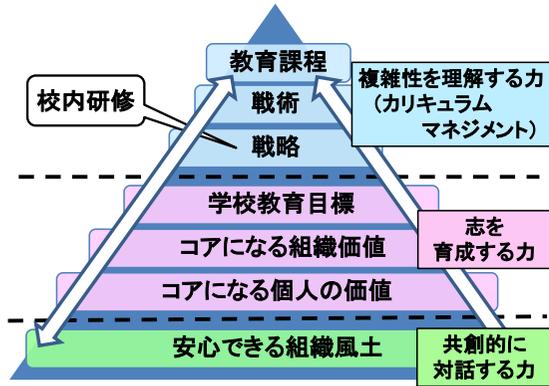


学校・教職員の
取り組み（戦略）

学校・教職員の
取り組み（戦術）

各学校のカリキュラムマネジメントの工夫例

児童と共有する、共創する
ルーブリック



京都市立葵小学校 市村校長作成

資料提供京都市立葵小学校

令和2年度 ☆人間関係力 あおいG I i d☆

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自分を適切に評価する力			
課題設定	・自分のしたいことを選んでる。	・友達や先生と協力して、最も良い課題を選んでる。	・自分で適切に課題を設定している。
学習計画	・課題を解決するため意見を出している。	・これまでの経験や知識から、課題について予想し、解決するための道筋を考えている。	・課題解決に向けて、計画を修正しながら取り組みを進めている。
振り返り	・何を学んで何ができるようになったかわかる。	・身に付けた力どうしのつながりに気付いている。	・つなげた力をどこでどのように発揮するか考え、実践しようとしている。
相手に共感し、お互いの自分らしさを認め合う力			
考えの違い	・違う意見や考えがあることを知り、考えが違っていいことを理解している。	・相手の話を受け止めて、自分の考えをもつことができる。	・安心して考えを出し合う中で、自分と違う考えを受け止め考えを再構築する。
関わり合い	・友達の良いところを見つけている。	・見つけた良さをみんなと共有している。	・他者のために自分の力を発揮する。

人間関係力 あおいグリッド

「ごんぎつね」をする前

	名前()
自分を適切に評価する力 学習計画	課題を解決するため意見を出している。
相手に共感し、お互いの自分らしさを認め合う力 考えのちがいを	ちがう意見や考えがあることを知り、考えが違っていいことを理解している。
対話しながら試行錯誤し、新たな価値を生み出す力 聴く	より良い聞き方を考えている。 友達の思いや意見を否定せずに聞いている。

「ごんぎつね」をした後

自分を適切に評価する力 学習計画	課題を解決するため意見を出している。	これまでの経験や知識から、課題について予想し、解決するための道すじを考えている。	課題解決に向けて、計画を修正しながら取り組みを進めている。
相手に共感し、お互いの自分らしさを認め合う力 考えのちがいを	ちがう意見や考えがあることを知り、考えが違っていいことを理解している。	相手の話を受け止めて、自分の考えをもつことができる。	安心して考えを出し合う中で、自分と違う考えを受け止め考えを再構築する。
対話しながら試行錯誤し、新たな価値を生み出す力 聴く	より良い聞き方を考えている。 友達の思いや意見を否定せずに聞いている。	人の話を共感的に聞いている。 友達の意見をもっと聞きたいと考えている。	多様な価値を認めている。 相手の思いを受け止めている。

理由

課題を解決するための意見をはんの話し合ってたけど全体の話し合ってた意見を出せなかったから。相手の話を受け止めて自分の考えをもつことができたから。より良い聞き方を考えているではあまり人の話を聞いていなかったから。はつけていません。

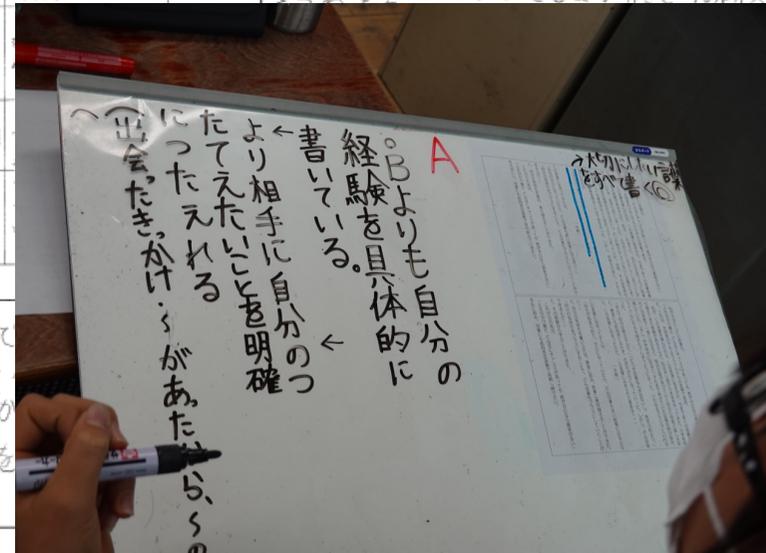
「ごんぎつね」ふりかえり

ルーブリック

S	到達
Sは登場人物の気持ちの変化のしめこみを読みとることが出来るはできたと思ひます。たけむそのほかのSはできていなかった。のでかんははりたけむす。	到達のこひてんかや弁はんのを最後ことができてはできてこ

単元を通してのふりかえり

クラスで話し合いをしたり、リーフレットを作ったりしての気持ちを考えることができてよかったです。準備



田村(2022, 74-77, 101-106)

各学校のカリキュラムマネジメントの工夫例

カリキュラム・マネジメントは各学校の実態に応じて多様でありうる（唯一の正解はない）

資質・能力別に
単元を色分け

「こうすればよかったを形に残そう」研修

平成30年度 本山町立嶺北中学校 外年間カリキュラム表 A 小地域等の人的・物的資源の活用 2018年4月4日

学年行事 (主な行事)	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		学年末に向けて
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
国語 <100>
社会 <100>
数学 <100>
理科 <100>
外国語 <100>
総合的な学習 の時間 <20>
特別活動 <20>
道徳 <30>
音楽 <30>
美術 <30>
保健体育 <100>
家庭科 (家庭科時間) <30>



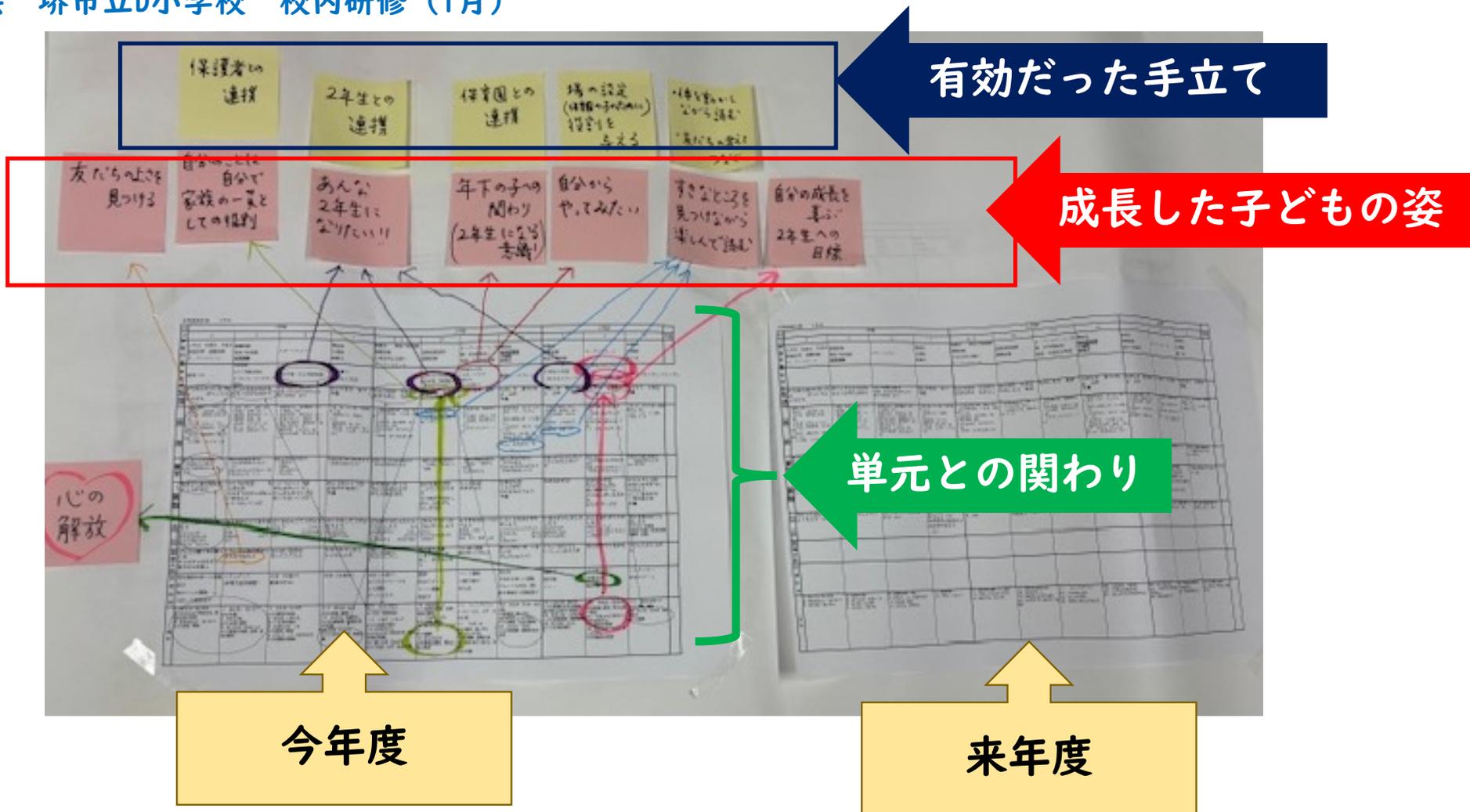
さっと集まり
作戦会議



例) 単元配列表で「見える化」, 共有, 対話的な「振り返り」と再デザイン

単元配列表を活用した振り返りと学年末に向けて

資料提供 堺市立D小学校 校内研修（1月）



単元配列表を活用した振り返りと学年末に向けて

資料提供 堺市立D小学校 校内研修 (1月)

学年別グループ

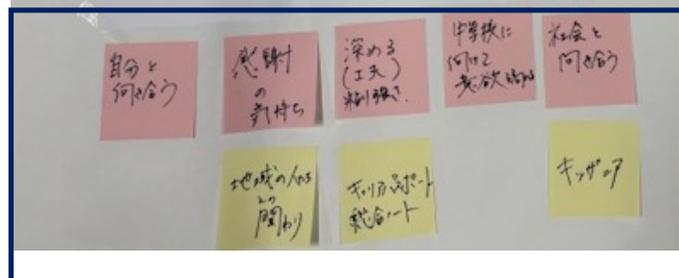
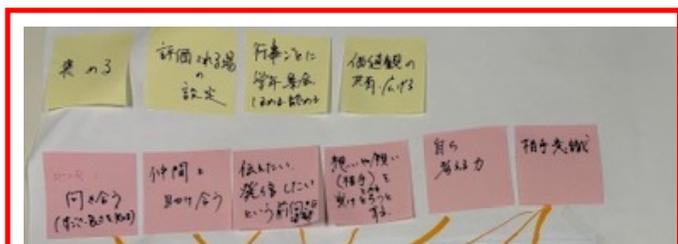
時間:GW30分程度+全体交流

学年外の先生方をお願い

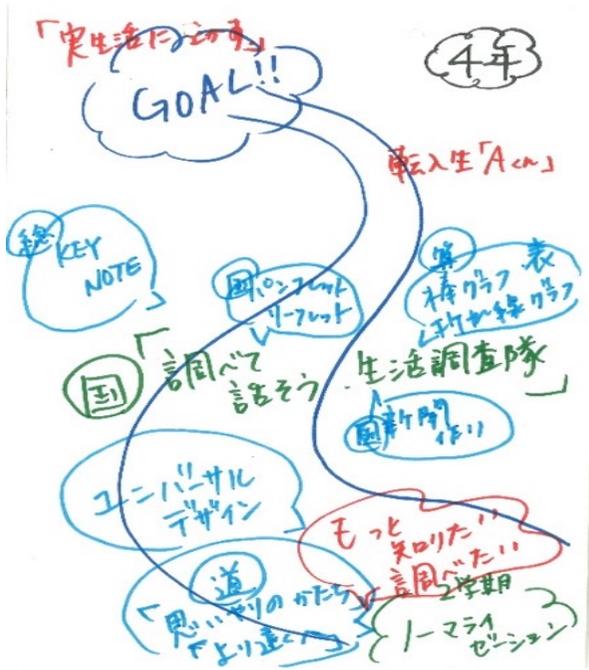
「子どもの成長した姿を指摘し、どのような指導をされたのか先生方に尋ねてください」

成長した子どもの姿
有効だった手立て

子どもの成長の課題
これから行う手立て

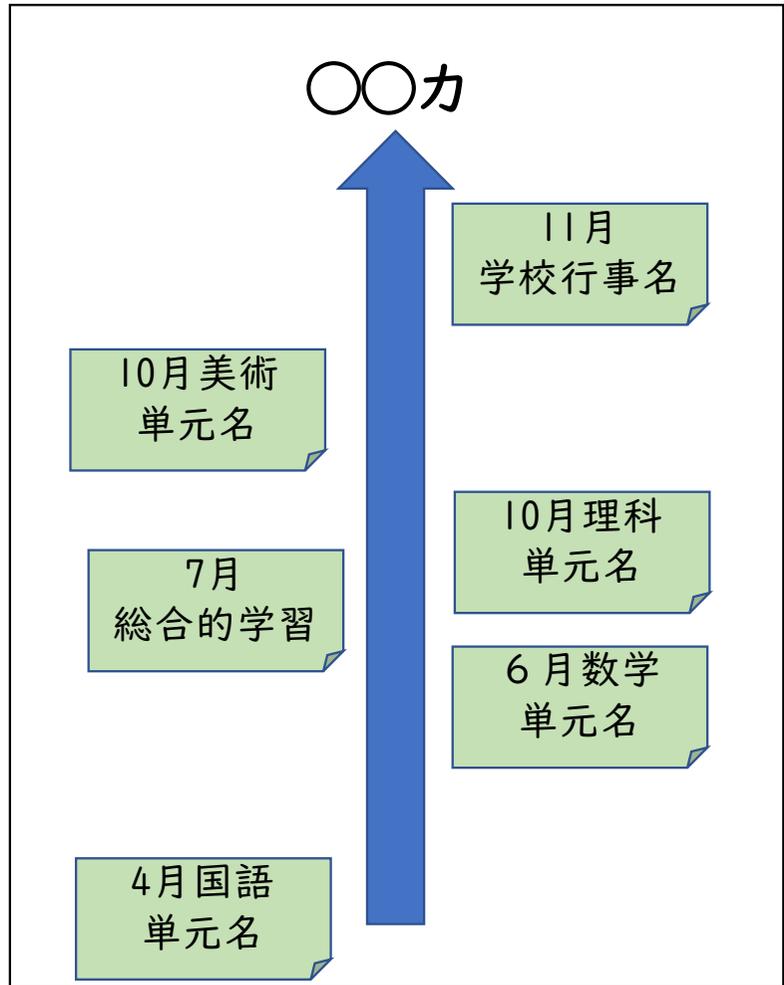


教科等横断的に、
学校教育目標の具現化に
取り組む



事例提供：摂津市立摂津小学校

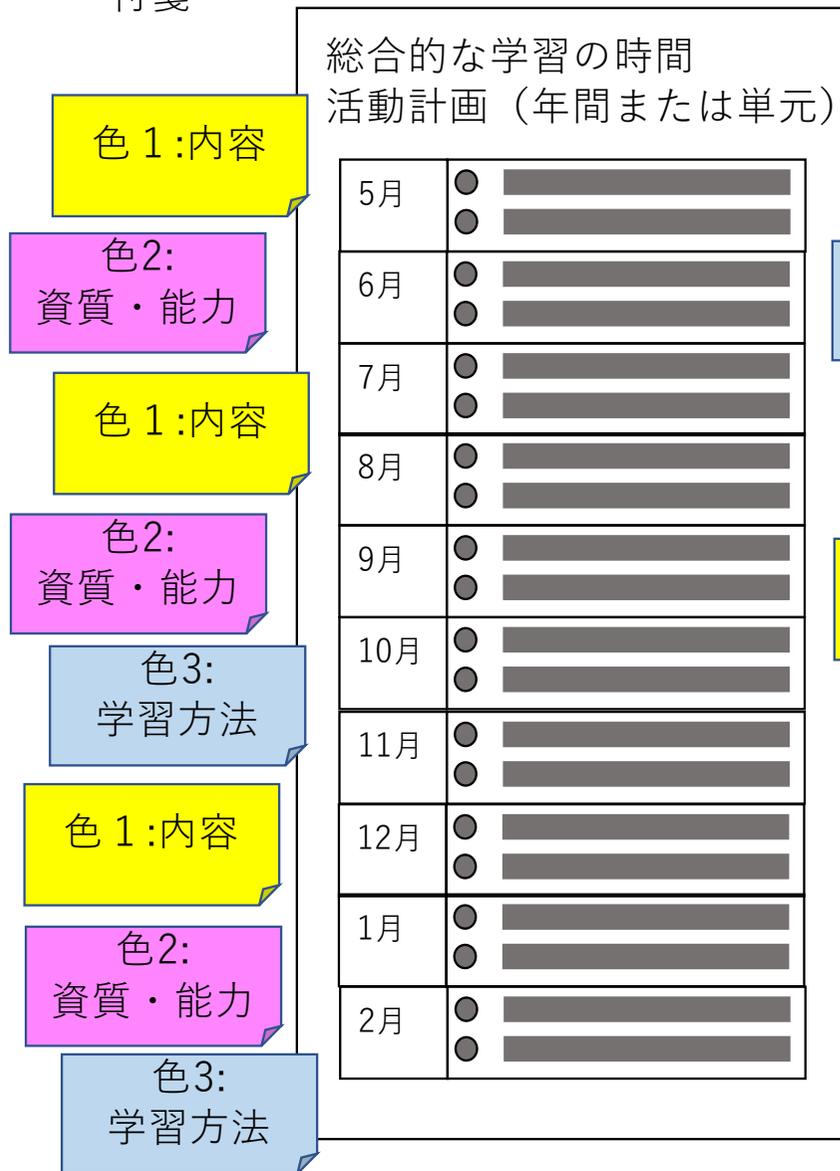
育成をめざす資質・能力に向かって、
教科等横断的に考えてみる



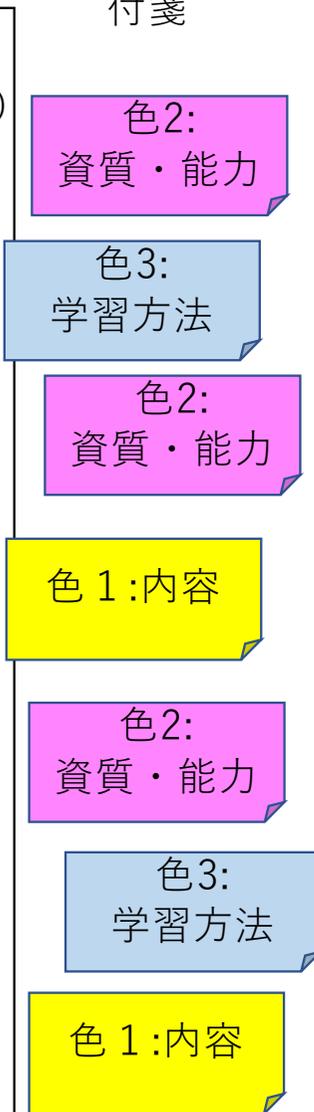
- A. 各教科等に**共通**して有効なこと
- B. 各教科等の特性, **固有性**

両方が見えてくるのでは？

付箋

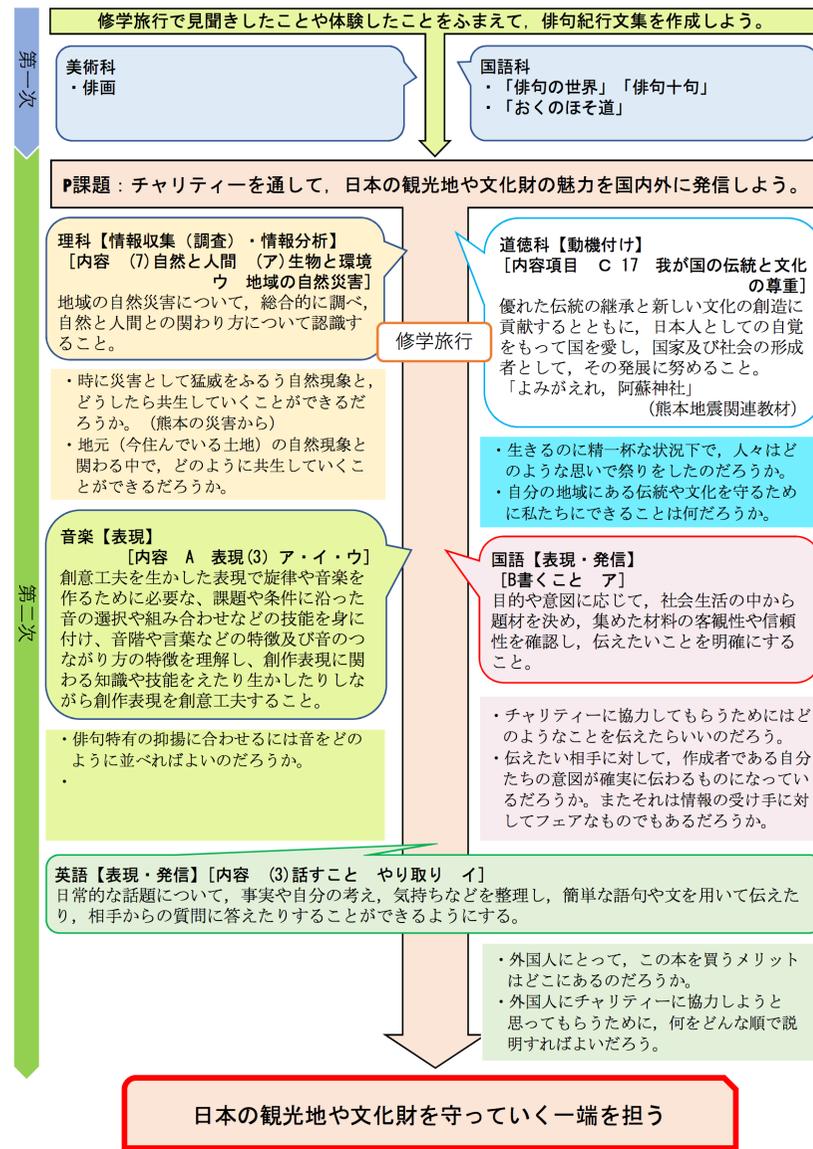


付箋



【事例 福岡教育大学附属小倉中学校】 第2学年

7 横断的学習のグランドデザイン [教科横断の類型: 類型6 (現代的な諸課題)]



各学校のカリキュラムマネジメントの工夫例

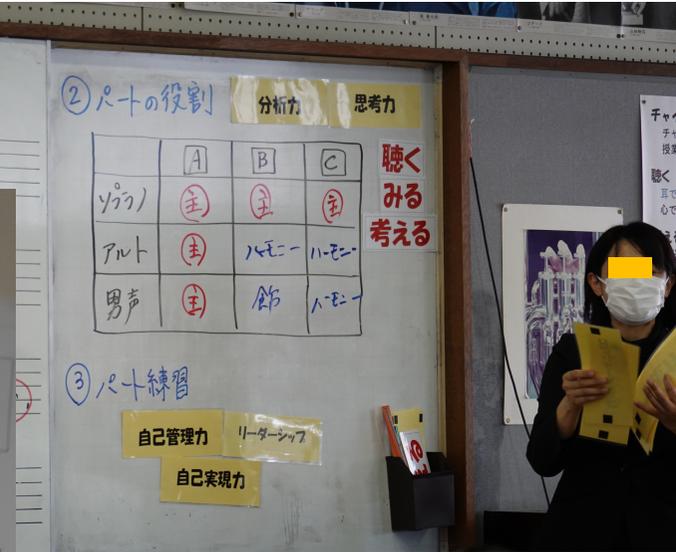
事例提供：加賀市立山中中学校
田村(2022) p.78

- ### YCLA (山中中リベラルアーツ)
- 1 分析力**
 - 情報収集し分析する力
 - 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
 - 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する情況把握力
 - 2 思考力**
 - 自ら考える力
 - 論理的に思考する能力
 - 3 創造力**
 - 既存の概念に束縛されない自由な発想力
 - 既存のものを組み合わせる新たな価値を生み出す力
 - 4 プレゼンテーション力**
 - 自分の意見を分かりやすく伝える発信力
 - 説得力
 - 5 コミュニケーション力**
 - 世代、国籍、専門を越えた意思疎通・共感力
 - 文字、言葉を超えた意思疎通
 - 相手を尊重した聴く力
 - 意見の違いや立場の違いを理解する力
 - 6 リーダーシップ**
 - 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力
 - 目的を設定し確実に実行する力
 - 他人に働きかけ巻き込む力
 - チームで問題解決できるコラボレーション力
 - 7 思いやる力**
 - 違いを尊重する能力 (個人レベル、社会・文化レベル)
 - 相手の気持ちになって行動する力
 - 8 変化対応力**
 - 複眼的な広い視野
 - 社会的変化、自己を取り巻く環境変化への対応力
 - 9 自己管理能力**
 - 社会のルールや人との約束を守る規律性
 - ストレスコントロール力: ストレスに対応する力
 - 倫理観
 - 10 自己実現力**
 - 自己の適性を把握し伸ばす力
 - 社会の未来像と自己の将来像を見通す力
 - 自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲



今週の3年2組 12月7日~12月11日編

- ① 分析力**
 - 第一希望校について調べた。
 - 図形を見て考えることができた。
 - 社会の仕組みなどを分析した。
 - 高校の特徴について知る事ができた。
 - 自分には何が足りないのか、どのような勉強法が自分に合っているのか等を分析できた。また、委員会でのようなまとめた方をしたら分かりやすいかを自分で考える事ができた。
 - 国語の授業で漢字がわからない時に漢字スキルなどで調べた。
- ② 思考力**
 - 宿題のわからないところを自分で考えられた。
 - 自分の長所や短所が何なのか考えた。
 - 12月、1月の生活目標を考えた。
 - 簡単に解けるように考えた。
 - 数学で円周角の定理について考えた。
 - 推薦用紙に詳しくも深い内容が書けた。
 - 数学の時間にどのような言い方で発言したらみんなが分かりやすいかを考えて発表することが出来ました。
 - 自分で時間を考えて行動した。
- ③ 創造力**
 - 自分の決断で数十秒もどうなるか分かった。
 - 絵合で、自分の将来像を描くことができた。
 - 美術の時間に新しく作る作品の案を考えた。
 - 体育の授業で自分たちにあったダンスを考えることができたと思う。
 - 推測ができた。
 - 美術で自分だけの時計のデザインを考えた。
- ④ プレゼンテーション力**
- ⑤ リーダーシップ**
 - 部下に話かけるときにみんなに声をかけた。
 - 委員会企画を進めた。
 - 体育の時間のダンスでダンスを率先して考えて着まわす事が出来ました。またダンスは続くので、来週もリーダーシップを発揮出来るように頑張ります。
- ⑥ 思いやる力**
 - 堀川先生の授業で反応しました。
 - 国語の授業で笑った。
 - 弟の宿題を教えた。
 - シャボン玉、測しゴムを持ってあげた。
 - ドアに入るときに譲った。
 - 相手の気持ちを考えて行動した。
 - できないことがある人に、自分から教えてあげることができた。
 - もう一人の人が僕の仕事を覚えていたのが愛おしいと思った。
 - 友だちに教科書を貸してあげた。
- ⑦ 変化対応力**
 - 季節に合わせて服を変えた。
 - 理科から数学になった時にすぐに教科書を出した。
- ⑧ 自己管理能力**
 - 道徳について先生が話しているときにルールを守って話をきくことができた。
 - 不要なものを捨てたり自己管理が進んで行ったりすることができた。
 - 授業に真面目に取り組めた。
 - ストレスが溜まったとき思いやることとして解決できたと思った。
- ⑨ 自己実現力**



文部科学省，令和元・2年度，3・4年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」による『手引き』に全国の多くの実践事例があります。



各教科で汎用的に活用できる 書く力の育成

四條畷市立忍ヶ丘小学校

Why なぜ取組を進める必要があったのか（実態・背景）

- ① 本校は長年「国語科」の研究に取り組んできた。その中で、特に力を入れてきた「書く力」をより育むために、教科横断的に活用する取組み方を共有する必要があった。
- ② ①を実現するためには、学年のカリキュラム、各学年間の縦のつながりを見て、系統的に行う必要があった。

How どのように取組を進めたか（取組みの概要）

以下の点でPDCAサイクルに基づき、課題の改善に取り組んだ。

- 国語教材を「説明力」「理由力」「感想力」の3つの観点で分類し、教材と他教科との関連を確認し、単元を構想
- 主体的な学びを支える「ことばの力」を育む指導
- しかけシートの作成、スタボファイルの資料作成と活用促進
- 低、高学年ブロックでの研究授業

Change どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 各学年が教科の枠をこえて単元構想し、大きな捉えで学習活動をするようになった。
- 児童が書く時に「何のために」書くかを意識して、意欲的に取り組めるようになった。
- 児童がK（既習事項）W（学習課題）L（ふりかえり）を意識できるような単元の導入、まとめを大切に授業づくりが定着した。

主体的に考え、高め合う子どもの育成

～子ども理解を基盤に、つながりに気づく学びをめざして～

摂津市立摂津小学校

Why なぜ取組を進める必要があったのか（実態・背景）

- 書く力をさらに高めるために、教科等との関連を生かした指導が必要だと感じていた。
- 全職員でベクトルをそろえ、主体的に高め合いながら研究を進めたかった。
- 各学年の取組みのよさを全体で共有し、活かすことに課題が見られた。

How どのように取組を進めたか（取組みの概要）

- カリキュラム・マネジメントを支える環境整備
- 「めざす子ども像」の再設定
- 評価規準を児童に分かる言葉で具体化
- 教科等横断的な指導に重点を置いた研修や研究授業、PDCAサイクルによる取組

Change どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 年間を見通してカリキュラムを編成したり、指導時数を意識して学習計画を立てたりすることができるようになった。
- DCAサイクルへの意識が高まり、校内研修や日々の学年会の持ち方が変化した。
- 各学年で、既習事項や教科等との関連に目を向け、学習指導要領に立ち戻りながら教材を研究し、創意工夫を凝らした取組みが活発に行われた。
- 授業アンケートで、「新しい学習をするときに、これまでに学習したことや他の教科などで学習したことが役に立った。」と解答する児童が約87%になった。
- 児童が相手意識や目的意識を持って学び、学んだことをアウトプットする力を高めることができた。
- 地域の人的・物的資源を積極的に活用した取組が進んだ。また、継続的な取組を進めるために、取組み内容や連絡先等を学年ごとに一覧表に整理することができた。

例) 大阪府教育庁『カリキュラム・マネジメントの手引き』（R元・2・3・4）

カリキュラム・マネジメント あるある

R4大阪府カリキュラム・マネジメントWebフォーラム
(大阪教育大学 田村知子教授 作成資料を参考に作成)

カリキュラム・マネジメントを
しなければならない

ではなく..

こんな成長や課題がある！

だから

子どもに〇〇の力をつけたい
子どもに〇〇な学習経験をさせたい

〇〇な授業／行事をしたい

カリキュラム・マネジメントをしよう！

**カリキュラム・マネジメントは手段で
あり、課題解決の営みです**



カリキュラム・マネジメントって
「カリマネ表」を作ることですよ

単元配列表は「見える化」や
コミュニケーションツール
(手段)として有効ですが、

手段の目的化や形骸化も
起こりがち...



▲会議室に常時掲示しているの
で、いつでも気付いた時に
つながりを記入できます
(四條畷市立忍ヶ丘小)

カリキュラム・マネジメントは、

**子どもの学びを
マネジメントすること！**

カリキュラム・マネジメントを始めようと思うけど...

こんなこと、ありませんか??



©2014 大阪府もずやん

カリキュラム・マネジメントは
難しそう...わからない...

実は、すでに経験済み！！

**令和2年度の
コロナ禍での取組みは
まさにカリキュラム・マネジメント！**

令和2年度、振り返ってみると...

子どもの実態把握 育成する資質・能力の再確認
年間の授業日数確保 単元指導時期の入れ替え
授業時数確保 (時間割の工夫など)

学年間の系統性の確認 各教科等間の関連性の確認
学校の授業で行う学習指導と家庭で行う学習指導の整理

学校行事の見直し、工夫
ICT活用のための物的環境整備、研修、指導計画
人的支援の活用 (加配教員、学習支援員、その他の業務補助)
物的資源の調達・活用 (生徒数分の実験器具、打楽器、広い会場...)

この子どもたちに必要なことは？
この学習活動、学校行事の意義は？
今、できることは？
どうやったら効率的・効果的にできる？

...と問いながら、
ひとりの教員として、
学校全体として行った工夫はまさに
カリキュラム・マネジメント

目的を一層明確にして、条件を
勘案して、教育課程を工夫して
再設計したのでは？

カリキュラム・マネジメントの手引き
第1章

6

そこで文部科学省では、各学校や教育委員会におけるカリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組を支援するため、令和元年度から令和4年度にかけて、カリキュラム・マネジメントに関わる実践研究を行い、その成果を普及する事業（「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」）に取り組んできました。具体的には、調査研究を委託した教育委員会等において、実践研究校における取組を生かした「カリキュラム・マネジメントの手引き」（以下「手引き」という。）の作成に創意工夫を生かしながら取り組んでいただきました。

この度、これらの手引きを活用してカリキュラム・マネジメントの取組を展開する際の参考となるポイントを「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント」（以下「活用ガイド」という。）としてまとめました。カリキュラム・マネジメントは、各学校の実態に応じたものとして展開されることにより、初めて、その効果が発揮されるものであり、その在り様は一様ではありません。このため本活用ガイドは、カリキュラム・マネジメントの三つの側面を手掛かりとしながら、各学校や教育委員会の多様な実態に応じて手引きを活用していただくためのものとして作成しました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/new/1389014.

『活用ガイド』に各自治体等が作成した『手引き』の特徴や見どころの紹介あり

文部科学省

**語り合おう！
進めよう！
わたしたちの
カリキュラム・
マネジメント**

カリキュラム・マネジメントの手引き
活用ガイド

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室



カリキュラム・マネジメントを 〈創造的営み〉として捉え直す

ー現職教員の声から見える、次期学習指導要領へのヒント

1. トップダウン的な誤解からの転換
→ 「管理職の仕事」から「チームで行う・若手も担える」へ
2. 目的の再認識
→ 「業務の整理」から「子ども中心の教育課程の再構築」へ
3. 創造的な営みとしての再定義
→ 「苦手・遠い存在」から「楽しい・やってみたいこと」へ
4. 子どもの姿が見えるように
→ 「大人がすること」から「子どもの学びのための営み」
「子どもの参画も可能な営み」へ

子ども中心の教育課程の再構築に向けて

現状：教師がお膳立てしすぎている？

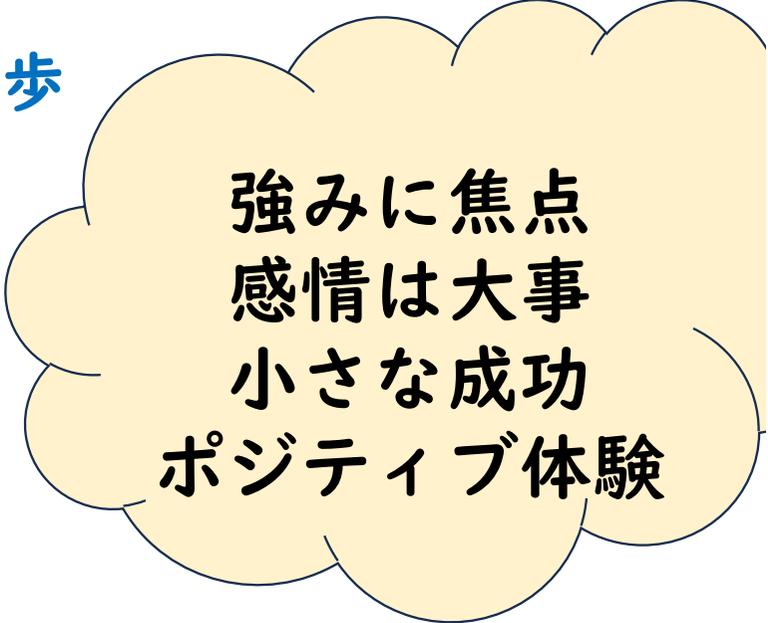
そもそも先生方は子どもをきちんとみている？

すでにやっていることもあるかも？

取り組んでみたいこと：大きな夢，小さな一歩

前進を阻む障壁・ハードルは？

障壁を乗り越えるために，生かせる強みは？



強みに焦点
感情は大事
小さな成功
ポジティブ体験

カリキュラム・マネジメントのポイント

「つながり」をつくろう

カリキュラムの中に（例：目標と授業，単元と単元，生活と学校の学び…）

人と人の間に（誰がチームの一員だろう？どうやったら巻き込めるだろう？）

子どもの学びをよく見つめて，
子どもの姿と教育活動の関係を語り合おう

共に学びづくりをする仲間を増やそう



本研修資料のうち、講師著作に関する内容は、以下の図書を参照ください。

- 1) 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい, 2016
- 2) 田村知子著『カリキュラムマネジメント-学力向上へのアクションプラン』日本標準, 2014
- 3) 田村知子編著『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい, 2011
(理論解説と15の小中学校実践事例：言語活動、読解力、キャリア教育、道徳、小中一貫教育、スタートカリキュラム、総合的な学習の時間、体力づくり、特別支援教育、別室登校、カリキュラム管理室他)
- 4) 中留武昭・田村知子『カリキュラムマネジメントが学校を変える』学事出版, 2004
(理論解説と高等学校の実践事例)
- 5) 原田信之編著『カリキュラム・マネジメントと授業の質保証』北大路書房, 2018
(田村は序章を担当。本書は、8カ国のカリキュラムマネジメントを比較検討)
- 6) 村川雅弘・田村知子・東村山市立大岱小学校編著『学びを起こすー授業改革困難校をトップ校へ導いた“大岱システム”の奇跡』ぎょうせい, 2011
(言語活動の充実化を中心として飛躍的な学力向上に成功した)
(授業、校内研究、カリキュラムマネジメントの視点から多角的に分析)
- 7) 村川雅弘・野口徹・田村知子・西留安雄編著『「カリマネ」で学校はここまで変わる!』ぎょうせい, 2013
- 8) 田村知子 (2022) 『カリキュラム・マネジメントの理論と実践』日本標準
- 9) 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵 (2024) 『子どもと教師のウェルビーイングを実現するカリキュラム・マネジメント』<最新刊>
- 10) 田村知子 (2024) 「教員のカリキュラム・マネジメントの捉え方の実態と変容ー教職大学院の授業受講者のポートフォリオの分析」カリキュラム研究, 33, 43-56
- 11) 田村知子・石井英真 (2025) 『高等学校学びの変革ー広島県の挑戦』学事出版

